



kaminorippo.org

神の律法：付録4：キリスト教徒の髪と髭

非常に単純で完全に無視されている神の戒め

レビ記19:27の戒め

ほぼすべてのキリスト教宗派が、主が述べるように男性が髪と髭を保つことに関する神の戒めを無視することに、聖書的な正当性はありません。

我々はこれが聖書時代にすべてのユダヤ人によって中断なく忠実に守られた戒めであったことを知っています。今日の超正統派ユダヤ人もこれを守り続けていますが、箇所の子的誤解による非聖書的な詳細が加わっています。

また、イエスとそのすべての使徒および弟子たちが、レビ記19:27を含むトーラーに含まれるすべての戒めを忠実に守ったことに疑いの余地はありません：

「頭の周りの髪を剃ったり、髭の輪郭を皮膚に近づけて剃ってはならない。」

ギリシャとローマの影響

最初のキリスト教徒たちは、キリスト教時代初期の文化的影響により、髪と髭に関する戒めから逸脱し始めました。

文化的慣習と妥協

キリスト教がグレコ・ローマ世界に広まるにつれて、改宗者たちは自分たちの文化的慣習を持ち込みました。ギリシャ人とローマ人の両方は、髭や髪を剃ったり整えたりする衛生と身だしなみの規範を持っていました。これらの慣習は異邦人キリスト教徒の習慣に影響を与え始めました。



初期のキリスト教徒はローマ人とギリシャ人の外見に影響され、神の律法である髪と髭の保持方法を無視し始めた。

教会の確固たる姿勢の欠如

この時期こそ、教会の指導者たちが文化的価値観や慣習に関係なく、預言者とイエスの教えに忠実であり続ける必要性を強調して堅く立つべき時でした。

彼らは神のどの戒めに対しても妥協すべきではなかった。しかし、この決意の欠如は世代を超えて受け継がれ、神の律法に忠実であり続ける能力が弱まった民をもたらしました。

神によって保たれた残りの者

この弱さは今日まで続いており、我々が今見る教会はイエスが設立したのものから大きく離れています。それが存続している唯一の理由は、いつも通り、神が残りの者を保ったからです：
「バアルにひざまずかず、彼に口づけしなかった七千人」(列王記上19:18)。

戒めの意義

服従の思い起こし

髪と髭に関する戒めは、服従と世俗的影響からの分離を具体的に思い起こさせるものです。それは文化的または社会的な規範よりも神の指示を尊重することに捧げられた生活を反映しています。



聖書には、神が髪と髭に関する彼の戒めを取り消したことを示す箇所はありません。イエスとその弟子たちはみな律法に従って髪と髭を保ちました。

イエスとその使徒たちはこの服従を模範とし、その例は現代の信者が神の聖なる律法への忠実さの一部として、このしばしば見過ごされる戒めを取り戻すよう促すべきです。

イエス、彼の髭と髪

究極の模範としてのイエス

イエス・キリストは、その生涯を通じて、永遠の命を求める者がこの世でどのように生きるべきかの究極の模範を示しました。彼は、神の子の髪と髭に関する戒めを含む、父のすべての戒めに服従することの重要性を示しました。

彼の模範は、同時代の人々と未来の弟子たちの世代にとって、2つの重要な側面で意義を持ちます。

ラビの伝統への挑戦

彼の時代に、イエスのトローラーへの忠実さは、ユダヤ人の生活を支配していた多くのラビの教えに対抗するものでした。これらの教えはトローラーに極めて忠実であるように見えたが、実際には人々をその伝統に「奴隷」として縛るための人間の伝統でした。

純粹で汚れのない服従

髭と髪に関する戒めを含むトローラーを忠実に守ることで、イエスはこれらの歪みを挑戦し、神の律法への純粹で汚れのない服従の模範を提供しました。

預言と彼の苦しみにおけるイエスの髭

イエスの髭の重要性は、預言と彼の苦しみの中でも強調されています。イザヤがメシアの苦難を予言した中で、**苦難の僕**として、イエスが耐えた拷問の一つは、髭を引っ張られ、引きちぎられることでした：「私は背中を打つ者に差し出し、髭を抜く者に頬を差し出した。私は顔を嘲笑と唾から隠さなかった」(イザヤ50:6)。

この詳細は、イエスの肉体的な苦しみだけでなく、想像を絶する拷問の中でも神の戒めへの揺るぎない服従を強調します。彼の模範は、今日の彼の従者に、彼がそうしたように生活のあらゆる面で神の律法を尊重する強力なリマインダーとして残っています。

この永遠の戒めを正しく守る方法

髪と髭の長さ

男性は、遠くから見ても髪と髭があることが明らかになる長さを維持すべきです。長すぎず短すぎず、主な関心事は髪も髭も近すぎるほど刈り込まないことです。

自然な輪郭を剃らない

髪と髭は自然な輪郭で剃ってはなりません。これが戒めの鍵となる側面であり、ヘブライ語の単語 *pe'ah* (פֶּאָה)、つまり輪郭、端、境界、角、側を意味します。これは各毛の長さではなく、髪と髭の自然な端を指します。例えば、同じ単語 *pe'ah* が畑の端について使われています：「あなたの土地の収穫を刈るとき、畑の端 (*pe'ah*) まで刈り取ってはならず、収穫の落ち穂を集めてはならない」(レビ記19:9)。

明らかに、これは小麦(または他の植物)の長さや高さではなく、畑自体の端を指します。髪と髭にも同じ理解が適用されます。

戒めを守るための要点

1. 視認性の維持: 髪と髭は目に見えて存在し、認識できるようにし、神が命じた区別を反映するべきです。
2. 自然な端の保持: 髪の生え際と髭の自然な輪郭を剃ったり変えたりするのを避けます。

これらの原則を守ることで、男性は髪と髭に関するこの神聖な指示を忠実に守り、神の永遠の戒めを意図された通りに尊重できます。

神を恐れ、その子イエス・キリストに従う すべての人のための髪と髭

正しい

髪の輪郭（すべての側面）、
髭（首を含む）、および
口髭は自然です。変更されていません



間違った

髪、髭、
口髭の自然な輪郭が変更されました。



kaminorippo.org

この神の戒めに従わないための無効な主張:

無効な主張:

「髭を生やしたい人だけが従う必要がある」

一部の男性、メシアニックな指導者を含む人々は、髭を完全に剃るためこの戒めに従う必要がないと主張します。この非論理的な推論によれば、戒めは誰かが「髭を生やす」ことを選んだ場合にのみ適用されるという

ものです。つまり、男性が髭(または髪)を伸ばしたいと思った場合にのみ、神の指示に従う必要があるということです。

この都合の良い論理は聖なるテキストには見られません。「もし」や「場合によっては」という条件はなく、髪と髭をどのように保つべきかについての明確な指示だけです。この同じ論理を使うと、他の戒めも無視できることとなります。例えば、安息日について：

- 「私はどの日も守らないので、7日目を守る必要はない」、または
- 「皿にどんな肉があるか聞かないので、禁じられた肉を気にする必要はない」

このような態度は神を納得させません。なぜなら、神はその個人が彼の律法を喜ばしいものではなく、存在しないでほしい不便なものを見なしていることを見ているからです。これは詩篇作者の態度とは対照的です：「主よ、あなたの律法を理解するよう教えてください。私は常にそれに従います。理解を与えてください、そうすれば私はあなたの律法を守り、心からそれに従います」(詩篇119:33-34)。

無効な主張：

「髭と髪に関する戒めは近隣諸国の異教の慣習に関係していた」

髭と髪に関する戒めは、同じ章の隣接する節で神が禁じる慣習が言及されているため、死者に関する異教の儀式と関連しているとしばしば誤解されます。しかし、文脈とユダヤの伝統を調べると、この解釈が聖書に確固たる根拠を欠いていることがわかります。

この戒めは個人的な外見に関する明確な指示であり、死者に関する異教の慣習やその他の異教の慣習については一切言及されていません。

レビ記19のより広い文脈

レビ記のこの章には、日常生活や道徳のさまざまな側面をカバーする幅広い律法が含まれています。これには以下に関する戒めが含まれます：

- 占いや魔法を行わないこと(レビ記19:26)
- 死者のために体に切り傷や刺青を入れないこと(レビ記19:28)
- 売春をしないこと(レビ記19:29)
- 外国人をよく扱うこと(レビ記19:33-34)
- 老人を敬うこと(レビ記19:32)
- 正直な重さと尺度を使用すること(レビ記19:35-36)
- 異なる種類の種を混ぜないこと(レビ記19:19)

これらの律法はそれぞれ、イスラエルの民の中での聖さと秩序に対する神の具体的な関心を反映しています。したがって、各戒めをその独自の価値で考慮することが不可欠です。28節が死者のための体の切り傷

を、26節が魔術を扱っているからといって、髪と髭を切らないという戒めが異教の慣習と関連していると単純に主張することはできません。

戒めに条件節はない

聖書に例外はない

タナハには、髪と髭を剃ることが哀悼と結びついている箇所がありますが、聖書のどこにも、男性が髪と髭を剃ってもよいと述べられていません、それが哀悼のしるしでない限り。

この戒めに対する条件節は人間の付加であり、神が彼の律法に含めなかった例外を作り出そうとする試みです。このような解釈は聖なるテキストにない条項を追加し、完全な服従を避けるための正当化を求めていることを明らかにします。

戒めを調整することは反逆である

個人的な都合に合わせて戒めを調整するこの態度は、明確に命じられたものに従うのではなく、神の意志への服従の精神に反します。死者のために剃ることについて言及する箇所は、この言い訳が髪と髭に関する戒めを破ることを正当化しないという警告として機能します。

正統派ユダヤ人

彼らの戒めの理解

髪と髭を切ることに関する特定の詳細について明らかに誤った理解を持っていますが、正統派ユダヤ人は古代から常に、レビ記19:27の戒めを異教の慣習に関する律法とは別であると理解してきました。

彼らはこの区別を維持し、禁止が哀悼や偶像崇拜の儀式とは無関係な聖さと分離の原則を反映していることを認識しています。

ヘブライ語の用語の分析

27節で使われるヘブライ語の単語、例えば *taqqifu* (תקפו)、つまり「周りを切るまたは剃る」を意味するものや、*tashchit* (תשחית)、つまり「傷つける」または「破壊する」を意味するものは、神が彼の民に期待する聖さのイメージを損なう方法で男性の自然な外見を変更することに対する禁止を示しています。

前後の節で述べられている異教の慣習との直接的な関連はありません。

聖さの原則としての戒め

レビ記19:27が異教の儀式に関連していると主張するのは誤りであり、偏見があります。この節は、イスラエルの民の行動と外見を導く一連の戒めの一部であり、他の箇所で言及される哀悼や偶像崇拜の儀式とは別個の命令として常に理解されてきました。

イエスの教え、言葉と模範による

キリストの真の従者は、彼の人生をすべての模範とします。イエスは、彼を愛するなら父と子に服従すべきであると明確にしました。

これは弱い者ではなく、神の王国に目を固定し、永遠の命を得るために必要なことは何でもする覚悟のある者に対する要求です—たとえそれが友人、教会、家族からの反対を引き起こすとしても。

キリスト教のほとんどの者が無視する戒め

髪と髭、[ツイット](#)、[割礼](#)、[安息日](#)、そして[禁じられた肉](#)に関する戒めは、事実上すべてのキリスト教徒によって無視されています。群衆に従うことを拒否する者は、イエスが我々に語ったように、確実に迫害に直面するでしょう。

神への服従には勇気が必要ですが、その報酬は永遠です。